

## E S D と私 ～持続可能な社会にするには～

持続可能な社会を実現するために大切なことといえ  
ば、節電やエコ活動、自然を大切にすること等、環境問  
題と結びつけられることが多いように思う。たしかにこ  
れらのことも大切だが、今私が感じているのは、世界を  
知ること、世界に存在する「世代内格差」について理解  
を深め、自らの視野を広げること、そして自分の気づい  
たことから、あるいは身近なところから行動を起こすこ  
とが大切なのではないかということだ。自分が行動を起  
こせば、水面に落ちたしずくが水面に広がっていくよう  
に人と人、人と自然のつながりができ、そのつながりが  
持続可能な社会の実現への大きな力になるのではないか  
と思うのだ。

このように考えるようになったのは、今年岡山で開催  
される「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」  
に向けた活動に高校1年生の時から参加したことがきっ  
かけだ。

この活動は、高校生の視点から持続可能な社会の実現  
についてディスカッションする国際的なフォーラムを、  
先生の助言を受けながら高校生だけで創り上げていくも  
ので、その運営に必要な様々な係をすべて高校生がこな  
し、それぞれが責任を持って主体的に活動していく。最  
初に関わった「日韓中高生高校生フォーラム」で私は装飾係  
だったが、参加者が気持ちよくフォーラムに臨めるよう  
それぞれの国の民族衣装や国花を描いて会場の雰囲気  
を盛り上げたり、ゴミ箱一つであっても、どこに置くのが  
よいかを考えて設置したりした。他者のことを考えなが  
ら、自分たちで様々なことを決め、関係する係と連絡を  
取り合いながら行動していくことで、今までにないやり  
甲斐と充実感を感じることができた。

2年生で参加した「UNESCOアジア・太平洋地域  
ESD高校生フォーラム」ではアテンドの係だった。ア  
テンドとは、他国からのゲストのお世話をする係で、常

にゲストのことを考え、ゲストが気持ちよくフォーラムに参加でき、笑顔で帰国できるように全力でサポートした。言葉が通じないときはジェスチャーで意志を伝える努力もした。ゲストとの文化の違い、考え方の違いに戸惑うこともあったが、同じ係の人と協力し、ゲストの気持ちを思いやりながら接すると不思議と通じ合うことが出来た。このフォーラムでは「持続可能性を阻害するもの、また持続可能性のために私たちは何を大切にするべきか」をテーマにディスカッションが行われたが、これらの問題を解決するために、「人と人のつながりを大切にするこことや環境への配慮、相手を尊重し思いやること、次の世代のことも考え、長期的な視野を持って共存していくこと、お互いの歴史や文化を学び、相互理解を深めていくこと」などを提言としてまとめた。私はこのフォーラムを通して、今ある環境に感謝し、人や自然と共存していくことの大切さを感じるとともに、国や地域が違っても、話し合い、つながり合うことで共通の思いを紡ぎ出すことができると感じた。

これらの活動を通して、私は自分が変わったことに気がついた。以前は、人前で話したり、自分の考えを述べることは苦手だった。しかし、今までになかった考え方や物事の見方などに触れる中で視野が広がり、勇気を出して自分の考えを伝えることで他の人と交流できることに喜びを感じるようになった。そして気持ちだけはでなく、自ら行動し、様々なものと出会い、世界を自分の目で見、肌で感じてみたいと思うようになった。そして家族に相談し、昨年3月にはオーストラリアへ、8月には岡山県が募集した高校生訪問団の一員として韓国へ、そして今年3月にはカンボジアへ出かけた。それぞれの国で現地の人と交流することができ、私にとって大変有意義な時間を過ごすことが出来たが、特にカンボジアでは、貧困問題に取り組み、女性の自立を支援するコミュニティファクトリーや地雷博物館をの訪問し、孤児院の子ども達と交流した。日ごろ当たり前に感じていたこと

が当たり前でないということを感じるとともに、これが「世代内格差」なのかと感じた。

私は、2年前、持続可能な社会の実現という、一人の力ではどうにもならないものと感じていた。しかし、意識して活動してみると、他者を尊重し、思いやりや感謝の気持ちを持って接すること、例えば次の人のためにドアを開けてあげるとか、スリッパをそろえて置くななど、実は身近なことから出来る活動であり、一人の行動が次の人につながり、広がりが出てくるものだとわかった。持続可能性を阻害するものには様々なものがあり、すぐには解決できないかもしれないが、自ら行動を起こし、他者につながりを持っていくことが、必ず持続可能な社会の実現につながると確信できた。

私は今後も、世界の様々な状況を知り、多くの気づきを得ながら、それを身近なところから行動に移すことで、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えている。